

本科 2 期 9 月度 1 回目

---

Z 会東大進学教室【体験授業用教材（抜粋版）】

---

難関大古文



・本科Ⅰ期・夏期講習からの継続受講生は、担当講師より指示のあった方法で予習をしてきてください。

・本科Ⅱ期から受講を開始する方は、左記を参考に本文を丁寧に読んできてください。2日目以降は、担当講師の指示に従ってください。

\*まずは文章をじっくり丁寧に読むことを心がけてください。その上で、設問を解いてきましょう。分からない単語や文法などは必ず辞書で確認してきましょう。なお、授業内で演習時間を与えられる場合もありますが、その際には、もう一度文章を丁寧に読み直し、解答に不備がないかどうか確認し、よりよい解答を作り直してきてください。

\*授業には辞書を持参しましょう。

## 本テキストについて

- 1 要点……全部の単元における必要な説明を一括して記載してある。授業の際の指標、方針や前提となる説明を述べている。授業の中の説明で、これを参照する場合もあれば、必要箇所においては補説を加える場合もある。また、家庭学習の際の参考書としても機能する。
- 2 例題……実際の講義で用いる問題である。名前は『例題』だが、演習問題という性格も併せ持つ。右の『要点』の説明を具体化させるための、いわば具体例となる問題であるから『例題』と呼んでいる。これを使って、読解方法や問題解法の過程などを教授する。
- 3 演習……授業で用いられるとは限らない問題で、主に「家庭学習（定着学習）」の素材として掲載してある。場合によっては、授業で利用することもある。家庭学習のための問題とはいっても、課題として置かれているわけではない。

右の他に、テキストの付属物として『解答・解説』がある。これは、自主学習の教材である『演習』に対して、解法の説明を行い、在宅学

習]でも問題解決がはかれるように、解法の説明も示されている。一応、『例題』の解答も付属させてあるが、これは単に確認のために過ぎず、授業で示される解答を最優先させて考えてほしい。また、授業は解説にこそ価値があるので、それを妨げないためにも例題の解説は掲載していない。聞き逃したり、不明な点は質問してこそ対面教育の価値が出るからだ。なお記述問題の解答には、一義的な答案は存在しないので、解答と銘打っているが、実際は例答である。

□ 目次

【要点編】

(第一部)

第1单元 基礎知識問題の研究（基本事項の確認）

● この单元の目的

- I 基本事項の確認に関する問題……基礎知識問題とは
- II 背景知識問題
- III 文法問題
- IV 語彙問題

第2单元 現代語訳問題の研究

● この单元の目的

- I 現代語訳問題への対処
- II 和歌の現代語訳に関する注意事項の確認
- III 記述型部分現代語訳問題への対処上の注意点
- IV 選択型部分現代語訳問題への対処上の注意点

第3单元 内容説明問題への対処

● この单元の目的

- I 内容説明問題の答案作成上の前提条件
- II 原則としての答案作成手順
- III 設問類型別の答案作成上の注意点

.....	8
.....	8
.....	9
.....	10
.....	14
.....	20
.....	26
.....	26
.....	27
.....	46
.....	50
.....	54
.....	57
.....	57
.....	58
.....	64
.....	70

〔第二部〕

第4単元 近世擬古文読解上の注意点

- I 文法・語法的注意点
- II 語彙的注意点

.....	76
.....	77
.....	80

〔第三部〕

第5単元 頻出文法識別問題の整理

● この単元の目的

- 1 〔けれ〕
- 2 〔し〕
- 3 〔しか〕
- 4 〔たり〕
- 5 〔て〕
- 6 〔な〕
- 7 〔なむ〕
- 8 〔なり〕
- 9 〔に〕
- 10 〔ぬ〕
- 11 〔ね〕
- 12 〔ばや〕
- 13 〔る〕

.....	82
.....	82
.....	82
.....	83
.....	84
.....	85
.....	86
.....	87
.....	88
.....	89
.....	91
.....	92
.....	93

付録

- I 主要枕詞一覧
- II 主要掛詞一覧
- III 主要敬語動詞一覧
- IV 連語・慣用句など

.....	94
.....	97
.....	99
.....	100

【問題編】

例題14 『西行上人談抄』

演習14 ① 『大鏡』

演習14 ② 『たまきはる』

例題15 『十訓抄』

演習15 ① 『保元物語』

演習15 ② 『太平記』

例題16 (設問の都合により掲載略)

演習16 ① 『大鏡』

演習16 ② 『枕草子』

例題17 『堤中納言物語』

演習17 ① 『愚見抄』

演習17 ② 『撰集抄』

例題18 『源氏物語(少女)』

演習18 ① 『建礼門院右京大夫集』

演習18 ② 『栄花物語』

例題19 『落窪物語』

演習19 ① 『宇治拾遺物語』

演習19 ② 『十訓抄』

例題20 『讃岐典侍日記』

演習20 ① 『更級日記』

青山学院大

法政大

日本女子大

青山学院大

関西学院大

成蹊大

和歌山大・改

中央大

オリジナル問題

大阪大・改

青山学院大

新潟大

立教大

東洋大

立教大

立教大・改

筑波大

青山学院大

上智大・改

聖心女子大

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

188 184 178 176 172 168 162 158 156 152 148 144 140 136 130 126 120 116 110 106

演習 20	②	『大和物語』	大阪大	192
例題 21		『風姿花伝』	横浜国立大	194
演習 21	①	『至花道』	大阪経済大	196
演習 21	②	『転寝草紙』	早稲田大	200
例題 22		『雨月物語』	オリジナル問題	204
演習 22	①	『藤篋冊子』	広島大	208
演習 22	②	『南総里見八犬伝』	日本大	212
例題 23		『去来抄』	オリジナル問題	216
演習 23	①	本居宣長随筆	明治大	220
演習 23	②	『世事見聞録』	オリジナル問題	224
例題 24		『鞆衣』	オリジナル問題	230
演習 24	①	『西鶴名残の友』	新潟大	234
演習 24	②	『西鶴織留』	青山学院大	238
例題 25		『源氏物語(葵)』	立教大	242
演習 25	①	『落窪物語』	神戸大	246
演習 25	②	『今昔物語集』	山形大	250
例題 26		『土佐日記』	オリジナル問題	254
演習 26	①	『とほすがたり』	宇都宮大	260
演習 26	②	『三野日記』	京都大	264
参考問題		『枕草子』	青山学院大・改	266
参考問題		『建礼門院右京大夫集』	東北大	270
参考問題		『平中物語』	オリジナル問題	272

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

\* 四条大納言、所労大事にて、死ぬべくなられけるに、大式高遠の三位、平礼にて、下の袴1はらかにて、雑色など引きつくるひて、大納言のもとに参られたりければ、とぶらひに行きあひたる人々、「こはいかなることぞ、所労の人のもとに引きつくるひて参られたる、尾籠の人かな」と、口々にそしりけり。さて、大納言臥しながら

対面して、定めて所労の事とぶらふならむと思はれけるに、

A

をば一言もいはで、「貫之が歌の中

逢坂の関の清水にかけ見えて今や引くらむ望月の駒

高遠が歌に、

逢坂の関の岩角ふみならし山立ち出づるきり原の駒

この両首、かれこれ一二反詠じ候へば、高遠が歌はまさりて覚え候ふを、四五反詠じ候へば、貫之が歌はことのほかにまさりて候ふ。この不審、御存生の時申し候はむとて参りて候ふ」と申されければ、大納言かきおこされて、落涙して、しばし有りて「公任かくれ候ひて後、誰か歌を大事にせむずらむと思ひ候ひつるに、御志3ふか

\* ノート \*

(注)

\* 四条大納言 || 藤原公任。一〇四一年没。

\* 大式高遠の三位 || 藤原高遠。一〇一三年没。公任と高遠の年齢から見ると、この説話のようなことがあったとは考えにくい。

\* 平礼 || ひれ烏帽子



かりける事あはれに有り難し」とて、この両首を二三反吟じて、「貫之が歌は、させる言葉のよせもなく、うるはしく云ひながしたり。御歌は、関の岩角ふみならしといふより、山立ち出づるきり原の駒とまで、言葉のよせたくみなる故に、貫之が歌には劣り候ふなり」といはれければ、「この不審申し候はむとて参りて候ふなり」と<sup>4</sup>て、所労をば遂にとぶらはで帰られにけり。その時、大納言、かやうの人末代には有り難くや。平礼にて引きつくるひたるも、和歌の談義の故なりと侍りけるにあはせて、またの日、なよらかなるさまにて、雑色などもさるやうにて参りて、内へも入らで所労のとぶらひばかり申して門より帰られたりければ、「昨日も引きつくるはれたりしは、誠に和歌の故なりけり」と、人々いひけり。和歌を執する事、古人はかくぞありける。

〔西行上人談抄〕

**問1** 文中に「」の付されていない会話文が一つある。その最初と最後の五文字を抜き出して示せ。

**問2** 空欄Aに入るひらがな四文字の言葉を文中から探し、記せ。

**問3** 傍線部1と反対の意味で用いられている単語を、文中から書き抜け。

**問4**

傍線部2について、人々は何を非難しているのか。最も適切なものを次のア～オから選びなさい。

- ア 高遠は公任と特に深い関係でもないのに、重病の時に訪ねてくるとは無礼である。
- イ 病人を見舞うのに、大勢の者を騒がしく引き連れて来たのは、思慮が足りない。
- ウ 公任は今にも亡くなりそうな状態であり、見舞いに来るには時機を失している。
- エ 重病の人を見舞うのに、あらたまつたようすで訪問したのは非常識である。
- オ 身分の高い人を訪問するのに、ふだん着で来たのは失礼である。

**問5**

傍線部3の解釈として、最も適切なものを次のア～オから選びなさい。

- ア 高遠が公任の病に対して、思いやりの気持ちを持っていること。
- イ 高遠が、和歌の道に対して、強い情熱を持っていること。
- ウ 公任の和歌への情熱を、高遠がよく理解していること。
- エ 公任の学識に対して、高遠が強い尊敬の念を持っていること。
- オ 高遠の名誉への執着が、気の毒に思われるほどであること。

**問6**

傍線部4はどのような気持ちを表しているか。最も適切なものを次のア～オから選びなさい。

- ア そのような不可解なご返事を聞くために参ったものではありません。まことに残念です。
- イ その疑問のために参ったわけではないのですが、ご病気とは知らず、大変失礼いたしました。
- ウ その点について、大納言殿に弁明したくて参りました。わかっていただければ結構です。
- エ その問題に関する大納言殿の判定はわかりましたが、私は納得できないと申しているのです。
- オ その点について、おうかがいしたくて参りました。疑問が解けました。有り難うございました。

**問7**

文中に引かれている二首の歌の評価について、最も適切なものを次のア～オから選びなさい。

ア 高遠も公任も、貫之の歌の方が優れているという意見で一致している。

イ 高遠も公任も、高遠の歌の方が優れているという意見で一致している。

ウ 高遠は自分の歌の方が優れていると思っているが、公任はそれを否定している。

エ 高遠は貫之の歌の方が優れていると思っているが、公任はどちらの歌が良いとも言えないと思っている。

オ 高遠も公任も、どちらの歌が優れているとは言いきれないと思っている。

**問8**

次の(1)～(3)のうち、藤原公任と生存年代が重なる人物には正、重ならない人物には誤を記しなさい。

(1) 紫式部

(2) 西行

(3) 菅原道真

次の文章は『大鏡』の一節である。東宮敦明親王は、大臣道長の圧力に抗しきれず東宮退位を決意する。本文は、東宮から大臣への取り次ぎを依頼された中宮権大夫（道長の子）が、東宮邸に参上する場面から始まる。

よく読んで後の設問に答えよ。

陣イに左大臣殿の御車や、御前ロどものあるを、なまむつかしと思し召せど、帰らせたまふべきならねば、殿上ハに上ニらせたまひて、「まゐりたるよし」**A**と、蔵人にのたまはすれば、「おほい殿の、御前にさぶらは

せたまへば、ただいまは**B**なむ申しさぶらはぬ」と聞えさするほど、見まはさせたまふに、庭の草もいと深く、殿上のありさまも、東宮のおはしますとは見えぬ、あさまじうかたじけなげなり。おほい殿の出でたまひて、かくと**A**すれば、朝餉イの方に出でさせたまひて、召しあればまゐりたまへり。「いと近く、

こち」と仰せられて、「ものせらるることもなきに、案内するもはばかり多かれど、大臣に聞ゆべきことのあるを、伝へものすべき人のなきに、間近きほどなれば、たよりにもと思ひて消息し聞えつる。その旨は、かくて侍るロこそは本意あることと思ひ、故院ハのしおかせたまへることをたがへたてまつらむも、かたがたにはばかり思はぬにはあらねど、かくてあるなむ、思ひつづくるに、罪深くもおぼゆる。内の御ゆく末はいと遙かにものせさせたまふ。いつともなくて、はかなき世に命も知りがたし。このありさま退きて、心に任せて行ニひもし、物詣でを

\*ノート\*

(注)

\*陣＝東宮御所の陣屋。

\*左大臣殿＝東宮の養育係、藤原顕光。「おほい殿」も同じ。

5

\*故院＝東宮の父、故三条院。

10

もし、やすらかにてなむあらまほしきを、むげに前東宮にてあらむは、見苦しかるべくなむ。院号たまひて、年に受領<sup>\*</sup>などありてあらまほしきを、いかなるべきことにかと、伝へ聞えられよ」と仰せられければ、かしこまりてまか<sup>(カ)</sup>でさせたまひぬ。

その夜はふけにければ、つとめてぞ、殿にまゐらせたまへるに、内へまゐらせたまはむとて、御装束のほどなれば、**B** 申させたまはず。おほかたには御供にまゐるべき人々、さらぬも、出でさせたまはむに見<sup>(ク)</sup>参

せむと、多くまゐり集まりて、さわがしげなれば、御車<sup>(ケ)</sup>にたてまつりにおはしまさむに申さむとて、そのほど、

寢殿の隅の格子によりかかりてゐさせたまへるを、源民部卿寄りおはして、「などかくてはおはします」と

聞えさせたまへば、殿には隠し聞ゆべきこと<sup>(コ)</sup>にもあらねば、「しかじかのことのあるを、人々もさぶらへば

**B** 申さぬなり」とのたまはするに、御けしきうち変りて、この殿もおどろきたまふ。「いみじくかしこ

きことにこそあなれ。ただとく聞かせたてまつりたまへ。内にまゐらせたまひなば、いとど人がちにて、

**B** 申させたまはじ」とあれば、げにと思して、おはします方にまゐりたまへれば、さならむと御心得<sup>(シ)</sup>さ

せたまひて、隅の間に出でさせたまひて、「東宮にまゐりたりつるか」と問はせたまへば、よべの御消息くはし

く申させたまふに、さらなりや、おろかに思し召さむやは。おしておろしたてまつらむこと、はばかり思し召し

つるに、かかることの出で来ぬる御よろこびなほつきせず。まづいみじかりける大宮<sup>\*</sup>の御宿世かな、と思し召す。

民部卿殿に申しあはせさせたまへば、「ただとくとくせさせたまふべきなり。なにか吉日をも問はせたまふ。

\*受領〓こは諸国の国司に任じた形式で収入を受けること。

15

\*源民部卿〓中宮権大夫の伯父、源俊賢。

20

\*大宮〓道長女。彰子。その子敦良親王を東宮に立てることを道長は望んでいた。

25

少しも延びば、思しかへして、さら<sup>(セ)</sup>でありなむとあらむをば、いかがはせさせたまはむ」と申させたまへば、さることと思して、御曆御覧するに、今日あしき日にもあらざりけり。

**問1** 傍線部(ウ)「かくて侍る」(オ)「行ひ」(キ)「つとめて」の意味としてもっとも適當なものをそれぞれ左より選べ。

(ウ)「かくて侍る」

- 1 大臣に我が意を伝えること
- 2 中宮権大夫に伝言を託すこと
- 3 東宮の地位にいること
- 4 東宮の地位を退くこと
- 5 天皇の位につくこと

(オ)「行ひ」

- ア 悠々自適の生活をする
- イ 仏道修行をする
- ウ 院として政治を行なう
- エ 謹慎して生活すること
- オ 一般の皇子と同じ生活すること

(キ)「つとめて」

- a 翌朝早く
- b 翌日ゆつくりと
- c 夜の明けきらぬうちに
- d きちんと準備を整えて
- e なるべく早く

**問2** 空欄A Bに入れるのにもっとも適当なものをそれぞれ左より選べ。

- 空欄A 1 奏 2 申 3 仰 4 啓 5 報  
空欄B ア かしくも イ ゆめゆめ ウ さらに エ つゆ オ え

**問3** 傍線部(ア)「上らせ」(エ)「たまへる」(コ)「ことに」の文法上の説明としてもっとも適当なものをそれぞれ左より選べ。

- a 完了の助動詞 b 尊敬の助動詞  
c 使役の助動詞 d 格助詞  
e 断定の助動詞 f 動詞の活用語尾

**問4** 傍線部(イ)「出でさせたまひて」(ク)「見参せむ」(シ)「御心得させたまひて」の主語としてもっとも適当なものそれぞれ左より選べ。

- 1 左大臣 2 藏人 3 東宮  
4 中宮権大夫 5 御供にまゐるべき人々 6 大臣(道長)  
7 源民部卿 8 その他

**問5** 傍線部(カ)「まかで」(ケ)「たてまつり」(サ)「のたまはする」について、①それぞれの敬語の種類をA群から、②その敬意が誰に対する敬意を表しているかをB群から選べ。(同じ記号を二回以上使ってもよい)

- A群 ア 尊敬語 イ 謙讓語 ウ 丁寧語  
B群 a 内 b 東宮 c 大臣(道長)  
d 源民部卿 e 中宮権大夫 f 藏人

**問6**

傍線部(ア)「さらなりや、おろかに思し召さむやは」には、誰のどのような気持が表れているか。もつとも適当なものをつぎの1～6から選べ。

- 1 退位せざるをえなかった東宮の無念さ
- 2 退位を覚悟した東宮の並々ならぬ決意
- 3 東宮の決意を知った大臣の並々ならぬ喜び
- 4 東宮の決意を知った大臣の東宮へのいたわり
- 5 東宮からの伝言を伝える中宮権大夫の真剣さ
- 6 東宮からの伝言を伝える中宮権大夫への大臣の慰労

**問7**

傍線部(セ)「さらでありなむとあらむをば」を、指示語の内容がはっきりと分るように二十五字以内で現代語に訳せ。





次の文章は、藤原俊成の息女建御前が書いた『たまきはる』の一節である。建御前は、初めは後白河院妃建春門院に仕え、門院の崩御後は後白河院の異母妹八条院に仕えた。この場面は、平家一門の都落ち後の八条院の御所である。

よく読んで後の設問に答えよ。

人の心も引き換へ、神世の初めなどを聞く心地して、あらぬさまに珍しくのみ聞こゆるにつけて、昔の御事は、いとど跡もなき心地して、人知れずあはれなる事も、おなじ心なる人、たれかは交じらむ。

心及ぶまじき際、事どもの、聞き定めぬ程は、あきれいたくのみ思ひ明かし暮らすに、明日定まらせ給ふと聞こえて、さまざま心の引き引きに言ひ騒ぐ。何となく心騒ぎのみせられしに、院渡らせおはしますとて、人々は立ち退けど、分きて立てられずは、おぼつかなき事や聞くと、さかしく憎き心の中に思ひて、言ふかひなく心なき人になり果てて、立たぬを、少納言殿といふ老い尼の、かたはらいたしと思ひて、通りに立ちて招き騒ぎしが、をかしけれど、心得ぬ様に見もやらでゐたり。御前には、はばかりぬ人として、三位殿、近衛殿ぞ残り候はれし。

女院、「御位はいかに」と申させおはします御返事に、「高倉の院の四宮」と仰せ事ありしを、うち聞きしに、

\*ノート\*

(注)

\*明日く＝安徳天皇の次の天皇が明日お決まりになるとのこと。

5

\*高倉の院＝後鳥羽天皇。

さほど数ならぬ身の心中に、夜の明けぬる心地せしこそをかしけれ。女院、「木曾は腹立ち候ふまじきか」と中

させおはします。「木曾は、何とかは知らん。あれは筋の絶えにしかば。これは絶えぬ上に、よき事の三つ有り

て」と仰せ事あり。「三は何事」と申させおはします。「四つにならせ給ふ、朔旦\*の年の位、この二つは鳥羽\*の院、

四の宮はまろが例」と仰せ事ありしを聞きて、少納言殿なほ招きしかば、いま心得たるやうにて立ちにき。

さて、局に行きて、うち臥したりし。目に近かりし人々の心中も、おなじ心ならぬにつけて、おのおの引く方

は、数ならぬ際まで、さ(e)こそは思ひけめ、及ぶまじき身の程にも、心のなびき初めぬる筋々は、我ながらあやし

かりけり。

人は、うとかるべき事と招きしかど、院は、昔御覧じ馴れにしかば、うとかるべきものともおぼしめさざりし

御気色こそ、かたじけなく嬉しかりしか。

**問1** 傍線部(a)「おなじ心」の内容として最も適当と思われるものを、次の項目(1〜4)から選びなさい。

- 1 国のはじめの神々に関心をもつ心
- 2 新帝の新しい時代に関心をもつ心
- 3 この世にない珍しいことに関心をもつ心
- 4 去った人々について関心をもつ心

10

\*木曾＝源義仲。以仁王の子の北陸宮を強く推挙していた。

\*朔旦せきたんの年＝朔旦冬至の略。十一月一日(旧暦)が冬至にあたる年は二十一年に一度の瑞祥とされた。

\*鳥羽の院＝鳥羽天皇の即位。

\*まろ＝後白河天皇は、鳥羽天皇の第四皇子。

15

**問2**

傍線部(b)「おほつかなき事」、傍線部(c)「かたはらいたし」のそれぞれの意味として最も適当なものを、次の項目(1～4)から選びなさい。

(b) 1 気がかりなこと

2 前途が不安なこと

3 不可解なこと

4 待ち遠しいこと

(c) 1 きはずかしい

2 にがにがしい

3 ばかっている

4 おかしくてたまらない

**問3**

傍線部(d)「夜の明けぬる心地」とあるが、なぜそう感じたのか。その理由を二十字以内で答えなさい。

**問4**

傍線部(e)「さこそは思ひけめ」の「さ」は何を受けているか。文中の語を引いて答えなさい。

**問5**

傍線部(f)「うとかるべきものともおほしめさざりし」とあるが、この意味とほぼ同じ意味で使われている表現を、文中から抜き出しなさい。

